

令和5年度

学校関係者評価 報告書

社会福祉法人 周山会

富山医療福祉専門学校

令和5年度 富山医療福祉専門学校

学校関係者評価委員会

1. 日 時 令和6年6月23日（日）15時00分～16時30分
2. 場 所 社会福祉法人周山会 老人保健施設なごみ苑 4階会議室
3. 出席者

学校関係者評価委員

- ・原洋子 （滑川市連合婦人会長）
- ・出村眞佐範 （滑川市元副市長）
- ・山田修 （富山県農業共済組合職員）
- ・加田洋一 （元滑川市社会福祉協議会会長）

学校関係者

- ・小林寿夫 （学校長）
- ・酒井吉仁 （副学校長）
- ・吉森幸喜 （事務長）

4. 議題

- 1) 令和5年度自己点検・評価 報告
- 2) 令和5年度自己点検・評価 審議

令和5年度自己点検・評価 審議報告

<学校関係者評価委員評価>

I. 教育理念について

教育理念は、医療・保健・福祉に関わる専門職業人養成校としては妥当なものであり、これが大きく変わることはないだろう。教育理念に基づき示された教育目標・教育方針が達成できるよう今後も取り組んでいただきたい。これらを学校紹介、募集要項への記載、HP上で伝えていくことは大切であるが、わかりやすく伝えていくようにしてほしい。単に伝えるだけではなく、学生が教育方針を理解し、学修に取り組めるようにしてほしい。さらに教職員・学生に浸透しやすいように目に入るところに示すことも考えられたい。

II. 教育活動について

昨年度に引き続き、感染予防対策、災害対策がなされ、適切に授業、試験が行われたこと、教育評価が現状において適切に実施されていることは評価できる。また、目標に到達しない学生に対しての適切なフォロー、経済的な支援、ICTを活用した学修支援も評価できる。今後も引き続き、アセスメントポリシーに基づいた評価、学修支援体制について検証し、学生の学修成果を高め、学習意欲を継続できるように教育活動に取り組んで行っていただきたい。

III. 学生受け入れについて

入学志願者の減少、入学辞退などによる定員充足率の減少については少子化の影響もあると考えられるが、昨今では若者の職業観・生活感の変化も影響しているように思われる。志望動機も様々であろう。様々な個々の目標を支援できる教育体制を構築していただきたい。これまでの申し分の無い教育実績（進級率・卒業率・国家試験合格率・就職率）だけでなく、卒業生の臨床活動・実績、社会貢献などの情報を社会に公開していくことも必要であろう。アスレティックトレーナーコース、大学院への進学支援などの職域拡大に向けての新たな取り組みの状況、成果についても広く情報公開していただきたい。地域に根ざした学校として滑川市との連携を強化していくことも学生受け入れには必要と考えられる。

IV. 教職員組織について

学生・教職員の健康管理（健診・ワクチン接種）、災害時の在宅勤務体制整備がなされ適切に業務が遂行されていることは評価できる。

社会支援活動が活発になされており、学生の社会活動参加の機会が増えていることも評価できる。今後も継続して行って欲しい。

ICTの活用により業務の効率化、教育の質を高められるように取り組んで行って欲しい。

V. 施設・設備等について

今後も感染症対策を図り、学生一人ひとりが安心して共有スペースを利用できるように取り組んで欲しい。

設備の経年劣化による修理・交換（空調設備の修理交換、図書・PCの更新など）が必要であろう。今後さらに計画的に省エネと地域に根ざした教育機関としての取り組み（SDGs：全てのひとに健康と福祉を、質の高い教育をみんなに、働きがいも経済成長も）を推進して行って欲しい。

VI. 学生生活支援について

卒業後に専門職として社会に貢献していくためにも、社会活動、実習での学習経験が重要である。災害支援、防災訓練などは、卒業後の医療・福祉の現場において必要なものとなる。臨床現場での災害を想定した訓練、教育をお願いしたい。合理的配慮、ハラスメントに関する対応が益々必要になるだろう。教職員・学生の研修の機会をもうけて欲しい。

今後も学生が安全・安心して学習、学事に取り組めるよう、健康的に生活ができるように支援をおこなって行って欲しい。

VII. 管理・運営について

人格、多様な性への理解と対応が今後も必要となってくる。様々な問題への相談窓口の周知や対応について丁寧に説明を行って行って欲しい。

ハラスメントに対する防止・対応策の整備を進めて行って欲しい。

<今後の取り組み>

評価委員会からいただきましたご意見により今後の課題が明確となりました。

また、課題解決に向けての取り組みについてご助言をいただくことができました。令和6年度は、教育理念「知識力、人間性、対応力で有用の人に」を踏まえ、委員会からいただきましたご助言をもとに、課題解決に向けた教育改善に取り組んでまいります。今後も教育目標「健康増進から看取りまでの広範囲で多様な健康問題に対応できる人材の育成」の達成に向けた教育を実践してまいります。